

事案名	大久野島周辺海域の事案（広島県34-1）
分類	廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『旧軍毒ガス弾等』のフォローアップ調査について」平成15年10月27日〔1〕 ・証言〔2〕 ・「旧軍の毒ガス弾等の調査状況」（作成年月日不明）〔3〕 ・「戦後における旧軍毒ガス弾等の発見、被害および処理状況について」昭和47年7月20日〔4〕 ・「大久野島周辺海域に投棄された毒瓦斯等の処置について（請願）」昭和46年2月24日〔5〕 ・「広島県観光課情報収集調査」（昭和44年）〔6〕 ・「大久野島周辺海域の毒瓦斯処理に付いて陳情書」昭和44年10月4日〔7〕 ・「大久野島毒物製造施設処理の記録」〔8〕 ・「民間会社社史」〔9〕 ・「毒ガス島の歴史」平成4年〔10〕 ・タイトル・作成主体・作成年月日不明の大久野島の処理に関する資料（不鮮明なタイプ印刷）〔11〕 ・証言〔12〕 ・証言〔13〕 ・『毎日新聞』中部昭和33年5月30日夕刊〔14〕 ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料3の2〔15〕 ・「旧軍毒ガス弾等の調査について（報告）」昭和47年7月17日〔16〕 ・『毎日新聞』昭和33年5月30日夕刊〔17〕 ・「毒ガスボンベの処理について」昭和39年12月24日〔18〕 ・「昭和48年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（回答）平成15年8月29日〔19〕 ・「旧軍毒ガス弾等の調査について（回答）」昭和47年7月19日〔20〕 ・『朝日新聞』昭和45年12月23日〔21〕 ・「旧軍ガス弾等の資料調査について（報告）」〔22〕 ・「旧軍毒ガス弾等の調査について（回答）」昭和47年7月11日〔23〕 ・『朝日新聞』大阪昭和45年12月23日〔24〕 ・「毒ガス弾等調査資料」昭和47年6月5日〔25〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔26〕

資料内容概要

大久野島の東京第二陸軍造兵廠忠海兵器製造所では、毒ガス弾等が製造されていた。終戦後、毒ガス弾等及び毒ガス弾製造施設を解体したスクラップが大久野島周辺海域に投棄されており、以降、同海域で発見及び被災が報告されている。昭和44年には掃海が行なわれている。

廃棄・遺棄情報

- ・大久野島に人や荷物を運ぶ船に勤務していた人の証言として、「終戦後まもなく、旧軍の依頼により、船長と弟の3人で、荷物を運搬する船（約50t）により、ボンベ類を大久野島から松島付近まで運搬し、投棄した」と記載されている〔1〕。
- ・元忠海製造所の機械工の証言によれば、「昭和20年8月18日から約1週間の間に大久野島の青酸工室の設備を解体して近くの海域に投棄した。また、当時、処理作業をしていた人夫からボンベを近海に投棄したことを聞いた」と記載されている〔2〕。
- ・昭和20年10月から昭和21年2月に、米軍の化学処理部隊135名）によって毒ガス（内容不明）と青酸ソーダが大久野島周辺海域へ投棄された〔3〕〔4〕。
- ・漁協関係者の証言として、終戦後の占領軍の大久野島毒ガス処理について、「液体は太平洋方面に運ばれましたがその他の化学兵器は他所からも接收したものまで大久野島南西方面の一番深い場所」に投棄した、終戦と共に大久野島から「毒ガスや機械資材等」を海中投棄しているのを目撃し「カセイソーダ入缶を何百屯も海中に投棄した時は大久野島周辺海域の海面は真白くなる程魚が死んで浮いたこともありました」記載されている〔5〕。
- ・元大久野島消防士長は、大久野島に集積した毒物を土佐沖に投棄するため船に積み込む際に（昭和21年7月14日から同年10月31日）毒ガス処理作業工員が、イペリットを小船で忠海付近海域投棄した可能性があるとしている〔6〕。
- ・漁協関係者は、終戦後の大久野島毒ガス処理の際に、「ボンベ、金属製の筒等に入れた毒瓦斯や毒瓦斯製造機械器具容器等毒物の付着した一切の物件」はすべて大久野島南西端を基点とした北西から南西に向かう約4,000mの扇型の海域に投棄したと記載されている〔7〕。
- ・昭和21年11月から昭和22年5月にかけての大久野島の第2次処理作業において、各装置設備を解体して発生したスクラップが水深15m以上の海中に投棄された〔8〕〔9〕〔10〕。
- ・昭和21年11月から昭和22年5月にかけての大久野島の第2次処理作業において、催涙ガス10tと汚毒機械500tが海洋投棄された〔11〕。

発見・被災・掃海等処理情報

- ・昭和26年4月に、大久野島の周辺でタコを捕まえていた男性が、海に流れていたとみられる毒物により被災した。病院による診察ではイペリットによる傷と診断されている〔5〕。また、証言によれば、「被災者から昭和25年頃に大久野島の小島原周辺を歩いていたら毒物により足を被災したと聞いた」と記載されている〔12〕。
- ・漁師の証言によると、「昭和30年頃に、小久野島・松島・白石で囲まれた海域で漁をしていたところ、小型のドラム缶が網にかかったが、危険と思い中身を確認めないのですぐに投棄した」と記載されている〔13〕。
- ・昭和33年5月24日に、大久野島付近海域で漁民が海から青酸ボンベ2本を引揚げた。同ボンベは廃品回収業に売られ、作業場でこのうちの1本を解体したところ、ガスが流れ出し、死亡1名、中傷9名、軽傷18名の被害が出た。その後青酸ボンベの残留ガスは民間の工場処理された〔3〕〔14〕〔15〕〔16〕〔17〕。
- ・昭和39年7月31日に、瀬戸内海で操業中の漁船が海中から毒ガスボンベ1本（旧陸軍の茶1号）を竹原市に陸揚げしたが、同市では緊急処理を要するものと認め、警察を通じ陸上自衛隊にその処理を依頼した。自衛隊では、とりあえず応急措置を完了した〔18〕。
- ・昭和39年8月1日に、民間人から購入した古鉄の中にあつた毒ガスボンベ1本を自衛隊が回収し、海中投棄した〔19〕。
- ・昭和39年8月26日に、毒ガス入りボンベ1本が海中投棄された〔19〕。
- ・昭和43年5月11日、大久野島で毒物ボンベ1本が発見され、1名が負傷した〔15〕。
- ・昭和44年11月13日から昭和44年12月18日に、大久野島周辺海域を海上自衛隊が、水中カメラ音波探知機を使用して海底を探索するとともに、付近の水質海底の泥等検査を2回に分けて行なったが、毒物ボンベ等は発見されなかった〔20〕。
- ・昭和45年12月22日に、大久野島近海で漁船が毒ガスボンベ1個を引き上げ、漁民が負傷した。被災者数は資料により2名から5名と記載されている〔3〕〔4〕〔20〕〔21〕〔22〕〔23〕〔24〕（「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」によれば日付が23日になっている〔15〕）。別の資料によると、昭和45年12月23日から昭和46年1月16日に、陸上自衛隊がコンクリートで密封して呉警まで輸送し、呉警でさらにコンクリート及び鉄わくで補強し、同年6月30日に土佐沖に海中投棄された〔22〕〔25〕〔26〕。
- ・昭和46年2月8日に、竹原市内の漁業者が小型底曳船で操

	<p>業中に、大久野島南西海域（松島付近）で青酸ガスボンベと思われるものを引き揚げ、軽い中毒症状にかかった〔3〕〔23〕〔25〕。ボンベの処理について、ボンベは運搬中に壊れガスが放散されたので、竹原市が海中に投棄した〔2〕〔3〕。なお、ボンベの中身はなかったとしている〔23〕〔25〕。</p>
--	---